

平成24年度決算報告書

貸借対照表

(自)平成24年4月1日 (至)平成25年3月31日 (単位:円)

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産	320,267,505	流動負債	40,710,529
固定資産(基本財産)	826,938,263	固定負債	193,715,238
固定資産(その他の固定資産)	77,420,235	負債の部合計	234,425,767
		純資産の部	金額
		基本金	158,364,434
		国庫補助金等特別積立金	314,988,594
		その他の積立金	34,954,599
		次期繰越活動収支差額	481,892,609
		(うち当期活動収支差額)	4,409,282
		純資産の部合計	990,200,236
資産の部合計	1,224,626,003	負債及び純資産の部合計	1,224,626,003

事業活動収支計算書

(自)平成24年4月1日 (至)平成25年3月31日 (単位:円)

勘定科目		金額
事業活動収支の部	収入	
	介護保険収入	425,955,263
	医療事業収入	12,216,210
	経常経費補助金収入	113,970
	寄付金収入	1,380,000
	雑収入	2,695,130
	引当金戻入	17,328,743
	国庫補助金等特別積立金取崩額	13,260,037
	事業活動収入計(1)	472,949,353
	支出	
人件費	300,127,474	
事務費支出	51,156,139	
事業費支出	69,730,029	
利用者負担軽減額	610,692	
減価償却費	24,716,624	
引当金繰入	19,718,992	
経常支出計(2)	466,059,950	
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	6,889,403	
事業活動外収支の部	収入	
	受取利息配当金収入	458,504
	経理区分間繰入金収入	7,156,502
	その他の事業活動外収入	1,490,000
	事業活動外収入計(4)	9,105,006
	支出	
	借入金利息支出	2,439,675
	経理区分間繰入金支出	7,156,502
	雑損失	60,000
	その他の事業活動外支出	1,928,950
事業活動外支出計(5)	11,585,127	
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	△2,480,121	
経常収支差額(7)=(3)-(6)	4,409,282	
当期資金収支差額(11)=(7)+(10)	4,409,282	
前期繰越活動収支差額(12)	477,483,327	
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	481,892,609	
繰越活動収支差額の部		
基本金取崩額(14)	0	
基本金取崩額(15)	0	
その他の積立金取崩額(16)	0	
その他の積立金積立額(17)	0	
次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	481,892,609	



【ご利用者の状況】

平成24年度の施設入所の稼働率は96.8%、平均要介護度は3.97で、短期入所の稼働率は135.3%、平均要介護度は2.92となっています。最高齢は102歳、最年少は64歳7ヶ月で、平均年齢は男性が81.5歳、女性が89.3歳です。

ご寄付・ご寄贈

松尾尚武 様
細井則孝 様
村上民子 様
高田万紀子 様
松本勝利 様
片山 環 様
辻 治男 様
藤井順一 様
株式会社 朱常分店 様
京都青果協会 様
日本たばこ産業株式会社 様
株式会社 紅中 様 (順不同)

たくさんのご寄付・ご寄贈ありがとうございました。皆様の御芳情に厚く御礼申し上げます。

～職員一同～

編集後記

紅葉が見頃となる十一月に入り、今年も静原寮では、いろいろなイベントや行事を行ってまいりました。掲載されている写真はそのごく一部ですが、どうしたらご利用者の皆様が楽しめるのかを考えて、日々、お世話をさせていただきます。おやつを作ったり、京都水族館に行ったり、道の駅でお食事を楽しんだり、いただいたりしました。焼肉屋さんに行ったり、焼肉を食べたりもしました。夏の納涼祭では浴衣に着替えていただき、模擬店を見たり、歌謡ショーや太鼓の演奏を楽しんだり、歌謡祭を楽しんだりしました。また、童心に返って花火を楽しんだりもしました。十月には、運動会や芋ほりを行いました。私たちは、私たちの仕事は、決して楽な仕事ではありませんが、こうしたイベントや行事を行うことで掛けていただけたら、ご利用者からの「よかったよ!」の一言が、やりがいにつながっていると感じています。

これからも、少しでも多くご利用者の気持ちや要望にこたえられるように、ご利用者の皆様、安心して、気持ちよく生活が出来るように、職員一同頑張りたいと思います。

職員一同

平成25年 第17号 (平成25年11月)

〒601-1121
京都市左京区静市静原町582番地の1
社会福祉法人 松光会
特別養護老人ホーム 静原寮
TEL075-741-2866/FAX075-741-1761
ホームページアドレス <http://www.shizuhararyo.com>
E-mail shizuhararyo@kyoto.zaq.ne.jp
発行責任者/ 羽賀 進



三度目の東京オリンピック

特別養護老人ホーム 静原寮
施設長 羽賀 進



2020年の夏のオリンピック・パラリンピックが再び東京開催に決まった。市民が大喜びしている姿がテレビなどに映し出された。実はオリンピックの東京開催が決まったのは今度で三度目になるのだが、一回目は戦争のために返上、中止となってしまった。

戦前のことなので詳しいことは知らないが、歴史を紐解くと、昭和11年のIOC総会で昭和15年の第12回オリンピック東京大会の開催が決まり、その準備が始まったという。しかし、翌12年7月7日に中国で盧溝橋事件が勃発して、日中戦争が始まった。当時北支事変(のちに支那事変)と呼ばれた。このため内外からオリンピック辞退の声が上がり、昭和13年閣議で辞退が決まった。戦争のために、昭和15年に開催されるはずだった東京大会は幻のオリンピックとなってしまった。

第二回目の東京オリンピックは、日中戦争や第二次世界大戦という内外に大きな犠牲を払った苦難の時代を経て、戦後の復興の象徴として昭和39年に開催された。ご記憶の方もまだ大勢おられると思うが、私自身も小学6年生の時のことなので、よく記憶している。新幹線が開通し、「東洋の魔女」「円谷ガンバレ」「アベベ」「ヘーシンク」など、当時の競技の記憶を鮮やかに蘇らすことが出来るこれらの言葉と共に…。

ところで老人福祉法がこの前年に施行され、これまでの老人福祉施策と新たに介護施設として特別養護老人ホームが法制化された。オリンピックの陰に隠れてしまったが、家族や地域社会で助け合ってきた日本社会は、高度経済成長を追い、核家族化が進行する中で「寝たきり」老人の介護などが社会問題化し、老人福祉法は世界で初めて高齢者福祉に関する単独法として成立した。オリンピックと老人福祉法はそういう社会の大きな変化を表裏の関係で象徴的にあらわしていたように思う。

そして第三回目の東京オリンピックは、団塊の世代が後期高齢期を迎え、日本が高齢社会のピークに達するといわれる2025年の5年前に開催されることになった。前回大会の時のようなお祭り気分になれないのは、またしても時代が大きな曲がり角に差し掛かっているからだと思う。時代が、憲法改正や集団的自衛権などキナ臭い方向に進もうとしているなかで、再び「戦争」とともに記憶されるようなオリンピックはもうご免である。

言うまでもないが、大震災と原発汚染を経験した日本人は、その社会の価値観を大きく転換させようとしている。オリンピックを景気浮揚の道具、「アベノミクス」の第四の矢として遣い捨ててはならない。それよりもこれからの超高齢社会に相応しく、国民の新たな生き方に繋がるような、そんな社会の実現に向けての希望となり、記憶されるようなオリンピックになって欲しいと願うのだが、それはなかなか無理な相談というのだろうか。





おもてなしの心で、気持ちよく、くつろいでいただけないように努めています。